

# 1. 海洋立国日本の推進に関する特別な功績 分野

科学技術・学術・研究・開発・技能 部門

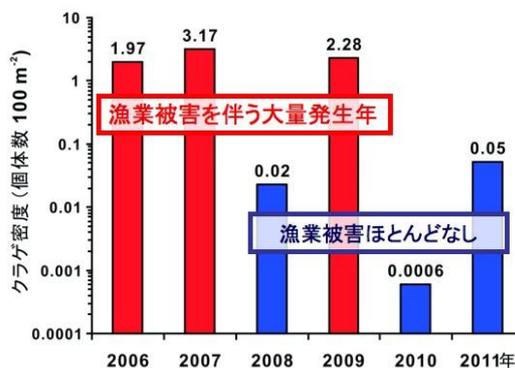
氏名又は 団体名称	うえ しんいち <b>上 真一</b>	年齢	61	
所 属	国立大学法人広島大学理事・副学長 (平和・国際担当)			
功績の概要	<b>クラゲ類の大発生に関わる研究</b>			

## 功 績 事 項

- 近年、本邦沿岸漁業や臨海発電所の操業などに深刻な被害をもたらしているミズクラゲとエチゼンクラゲの大発生の原因は、魚類資源の乱獲、温暖化、富栄養化、海洋構造物の設置など、沿岸生態系に対する人為的インパクトの増大であることを解明した。
- これまで謎であったエチゼンクラゲの生活史、発生場所、発生条件、輸送ルートを解明した。そして、発生源の中国沿岸域から日本海へ輸送途上の幼若クラゲを国際フェリーに乗船して目視調査することで、クラゲが日本に来襲する1-数ヶ月前に大発生の有無とクラゲ来襲量の大まかな予測が可能であることを明確にした。それにより無防備であったエチゼンクラゲ大発生に対する事前の対策が可能となり、漁業被害の軽減化に貢献した。
- クラゲ類の大発生に関わる農林水産省の研究プロジェクト「環境変動に伴う海洋生物大発生の予測・制御技術の開発：クラゲ類の大発生予測・制御技術の開発」のチームリーダーを務め、クラゲ発生予測モデルの開発や環境に優しいクラゲ発生制御技術の開発を世界に先駆けて行い、漁業が安定的に持続する豊かな海を取り戻すことに貢献した。



エチゼンクラゲの大発生による定置網被害。2005年度の被害額は300億円と推定。クラゲ来襲に如何に早期に対応できるかが被害軽減の鍵となる。



フェリー目視調査による7月の黄海の平均クラゲ出現密度。この調査結果に基づき毎年のエチゼンクラゲの大発生の有無と発生規模の予測が可能。それにより事前の対策が可能となる。

